

## 入 選

母なる川を守るには

筑西市立下館中学校

二年 古 橋 幸 帆

「水」といえば川。川は人間にとって命をつなぐ「母なるもの」と言われるように、とても重要な役割を果たしています。

川は、人間が生きていくのに必要な水を運ぶ役割や、人々にうるおいを与え生活をよりよくする役割、そして生物の憩いの場になることなどがあります。

私は、生態系に興味があり、毎日、自然の観察を兼ねた散策の為、小貝川へ出かけています。そこでは、ヨモギ、スゲなどの植物やキジ、カワセミなどの鳥類が見られます。小貝川はたくさんの動植物を育む生物の憩いの場になっていることを実感します。

そんな豊かな生態系を育んでいる川を守るためにはどんな取り組みが行われているか興味を持ち、下

館河川事務所のホームページを調べてみました。すると、三つの大切な機能があることが分かりました。それは、治水機能、利水機能、環境機能です。国土交通省のホームページにも掲載されていて国と地域が連携して取り組む重要な施策だということが併せて確認できました。

一つ目の治水機能とは、洪水による被害を阻止し生命と財産を守ることです。

近くに流れている小貝川でも多くの取り組みが行われています。河道（川そのものが流れる道）の整備や築堤の推進、流下能力が不足する区間での引堤です。また、地域防災リーダーの育成や地域連携防災訓練などを行い、いざという時に備えています。

私がいとも歩いている川の土手は、近隣住民の命を守る大切な堤防だと思いました。

二つ目の利水機能とは、飲み水や農業用水等で生活を支えていることです。

小貝川では、水路を整備したことで用水路が造られ、新田開発が盛んになったそうです。現在でも、小貝川の水はほとんどが農業用水として利用されて

います。また、下流では一部工業用水として利用されています。筑西市のおいしい農産物は、小貝川の恵みなんだと思いました。

三つ目の環境機能とは自然・生物等の保全で生活と街をうるおすことです。

小貝川では、流域の環境負荷削減対策を行い、より水質を良くしようとしています。BOD（生物学的酸素要求量）を2 mg/Lと国の基準を満たしたきれいな川です。ほかにも、小貝川は多種多様な動植物が息づいています。絶滅危惧種のフジバカマやキタミソウをはじめとする、多くの希少生物が生息する自然の宝庫です。また、小貝川流域治水プロジェクトなどを行い多様な生物の生息環境をつくる取り組みも行っています。だから小貝川は、あんなに緑が多くとても自然豊かなんだとおもいました。

このような三つの取り組みが、川から私たちを守り、そして生命を育んでいることが分かりました。このことを知った私は川を見る目が変わりました。こんな命をつなぐ母なる川を守っていくには一人一人がごみを捨てない、希少生物を取りすぎないなど

といった一人一人ができる工夫が必要だと思います。私の将来の夢は、自然に生きている植物や動物などの生態系を調べて、より生き物たちが生きやすくなるように研究することです。そのために、日々の中学校生活を頑張っていきたいです。